



れ、暖地性シダの生育の実態を見てきたが、タニヌワラビは見当らなかった以外は以前の姿で自然は維持されて林床の植物は立派に育っていた。。しかし、暖地性シダの密集地の周辺のスギが間伐されているのを見て大きな衝撃を受けた。現在そのままの素晴らしい自然を保つためにはスギの伐採をやめてもらうことである。また、この五斗蒔の優れた自然をこの地に住んでいる方々から理解してもらうことから出発しなくてはならないと考える。県内には、まだ残されている優れた自然があるにちがいない。その自然を保っていくには多くの人々の御協力なしには到底不可能である。県内の残された文化遺産を後世に伝えるのは、記録や採集された標本だけではなく、自然にどっかりと根をはって生きている植物そのものである。私は人的行為によって絶滅された植物を知っている。一たん失われた生態系をもとへ戻すのは不可能に近いと言われている。五斗蒔の自然がそのような姿にならないためにも、是非、保護したいものである。

五斗蒔にみられる主な暖地性シダをあげる。

ウチワゴケ、コウヤコケシノブ、オオハナワラビ、オオキジノオ、キジノオシダ、コバノイシカグマ、イワヒメワラビ、ウスヒメワラビ、ホソバイヌワラビ、タニヌワラビ、シケチシダ、ミヤマノコギリシダ（当地が日本の北限地、隔離分布=関 繁雄・石沢 進の両氏が発見）、ベニシダ、トウゴクシダなど。掲載写真はいずれも1993年11月23日に撮影。

#### 文 献

鈴木俊夫(1957)日本のシダの会会報

(NO. 25)

牧野恭次(1987)五斗蒔のシダ植物 新潟県植物分布図集 第8集

鷲尾和行(1988)新発田五斗蒔のミヤマノコギリシダ 同上 第9集

環境庁(1992)緊急に保護を要する動植物の種の選定調査



ホソバイヌワラビ



シケチシダ



ミヤマノコギリシダ



ベニシダ